

1人1台端末の活用による実践事例

(小・中学校)

学校名	岡山県立岡山操山中学校	実践者名	武智佳紀
教科等	社会	学年	第3学年
		授業活用段階 (岡山県版)	Stage 2
育成したい 資質・能力	課題解決能力や情報処理能力。コミュニケーションを取りながら思考を深められる力。		
単元・内容等	歴史的分野「護憲運動と政党内閣の成立」（帝国書院 H28 版）		
児童生徒の実態 (端末活用頻度等)	端末は毎時間活用しているので、特別な指示をすることもなく、活動に取り組むことができる。		
活用の概要（使用アプリ名を含む）			
(1) 単元の内容についての質問・疑問を考える。 ・各自で考えた質問・疑問を Forms に入力する。 ・教科書や教員が自作した PDF 資料を参考に質問・疑問を考える。 ・Forms への入力は何度してもよい。 ・質問・疑問は「なぜ」という形式で記入する。 ・入力した質問は即時スプレッドシートに表示されるので重複を避ける。 ・教師は、入力された質問に番号をふる。単元内容からずれているものは解説を加え、訂正する。 (2) グループで、質問一覧から選び、それについて調べてまとめる。 ・調べたことをスライドにまとめる。 ・一つの質問につき、一枚のスライドでまとめる。 ・他のグループと同じ質問にならないように調整する。 (3) まとめと振り返りをする。 ・作成されたスライドを表示しながら、教師の補足説明を聞く。 ・授業の最後に、生徒は振り返りシートに記入する。 ※振り返りシートのスプレッドシートはクラス全員で共有済。 ・まとめたドキュメントは Classroom で提出する。			
実践者の手ごたえ		児童生徒の振り返りや反応等	
端末操作の指示は必要ない程に慣れているので、操作説明に時間を取られることなく、課題の取組に入ることができている。 何もない状態で問いを立てることは難しいが、「質問を考えよう」という形式を取ればいろいろと考えることができる。		(生徒の振り返り) 「現在の政治体制につながっていると感じた。」 「好景気が来たり暴動が起きたりして複雑な時期だった。」 「はじめての本格的な政党内閣ができたことがわかった。」	



